

報道発表

平成18年8月9日

「サプライチェーンCSR推進ガイドブック」の公開について

(社)電子情報技術産業協会

社団法人 電子情報技術産業協会(JEITA)は、エレクトロニクス企業がCSRのサプライチェーン展開を実施する際のガイドラインとなる「サプライチェーンCSR推進ガイドブック」を策定し、本日、JEITAのホームページ上に公開しましたので、ご案内申し上げます。

このガイドブックは、エレクトロニクス企業がCSRを推進する上で考慮すべき項目と、その解説を取りまとめた【CSR項目の解説】編と、個々のCSR項目に対する取り組み状況を自己評価することができる【チェックシート】編で構成されています。

今後、CSRは単に個別企業やグループ内企業だけの取り組みのみにとどまらず、取引先・パートナーを含むサプライチェーン全体で、CSRを推進することが求められています。

一方、CSRという広範な活動に対する理解や進め方には、企業によって大きな違いがみられ、多くのエレクトロニクス企業では、サプライヤとの間でCSRに関する共通理解やコミュニケーションを深めることが容易ではない、という問題に直面しています。

そこで、今般、JEITAの「資材委員会」(委員長：辻 雅英・(株)東芝 コーポレート調達部長)では、資材調達の立場でサプライヤとのコミュニケーションを進めていくことに焦点を合わせて「サプライチェーンCSR推進ガイドブック」を作成し、これをホームページ上に公開することによって、広く多くの企業に活用して頂くことと致しました。

ガイドブック公開ホームページ：<http://home.jeita.or.jp/ecb/csr/>

概 要

1 背景

近年、企業を取り巻くステークホルダーにおけるCSR(企業の社会的責任: Corporate Social Responsibility)に対する関心の高まりから、業種を問わず、企業や経済団体でのCSR活動が本格化してきました。

世界に目を向けると、国連におけるグローバルコンパクトの提唱やISO規格化の動きなど、CSRに対する関心が高まりをみせており、企業の取り組みに対する社会的要請は、今後とも強まっていくものと考えられます。

これまで各企業は、CSR推進部署の設置やCSR方針の社外宣言、CSR報告書の公開など、積極的に取り組んできましたが、CSRは、単に個別企業やグループ内企業だけの取り組みのみにとどまらず、取引先・パートナーを含むサプライチェーン全体でCSRを推進することが求められています。

2 目的

サプライチェーンマネジメントの観点では、エレクトロニクス業界のサプライチェーンは、長く複雑であり、またグローバルに展開されていることが特徴です。

そのため、CSRという広範な活動に対する理解や進め方には、企業によって大きな違いがみられ、多

くのエレクトロニクス企業では、サプライヤとの間でCSRに関する共通理解やコミュニケーションを深めることが容易ではない、という問題に直面しています。

そこで、今般、JEITAの「資材委員会」では、資材調達の立場でサプライヤとのコミュニケーションを進めていくことに焦点を合わせて「サプライチェーンCSR推進ガイドブック」を作成しました。

3 特徴

このガイドブックの特徴としては、サプライヤの自己評価と“気づき”に配慮した内容となっております。【CSR項目の解説】編は、エレクトロニクス業界に求められる共通的なCSR項目を網羅した解説になっており、2004年にDell、HP、IBMが発表したElectronic Industry Code of Conduct (EICC)とも高い親和性を持っており、日本国内だけでなくグローバルに適応できるものとなっております。

【チェックシート】編は、サプライヤがCSR推進の仕組みと、実態把握についてのセルフチェックができるようになっています。

4 今後の予定

今般、日本語版のガイドブックをJEITAのホームページ上に掲載して一般に公開しましたが、今後は、グローバル対応に向けて、英文版および中文版の制作を予定しております。

なお、このガイドブックの作成に当っては、JEITAの「資材委員会」(電子機器メーカー及び電子部品メーカー33社で構成)のもとに設置した、「サプライチェーンCSRワーキンググループ」(主査：浅井広巳・日本電気(株) 社会インフラソリューション企画本部 資材部長)で具体的な検討を行いました。

また、このワーキンググループには、電子機器メーカーと電子部品メーカー12社(アルプス電気・オムロン・シャープ・ソニー・太陽誘電・東芝・日本電気・日立製作所・富士通・松下電器産業・三菱電機・村田製作所)が参加しました。

<参考添付> JEITA / サプライチェーンCSR推進ガイドブックの項目とEICCとの比較表

以上

JEITA / サプライチェーンCSR推進ガイドブックの項目とEICCとの比較表

JEITA項目		EICC項目	
大項目	中項目	大項目	中項目
人権・労働	強制的な労働の禁止 非人道的な扱いの禁止 児童労働の禁止 差別の禁止 適切な賃金 労働時間 従業員の団結権	LABOR	Freely Chosen Employment Humane Treatment Child Labor Avoidance Non-Discrimination Wages and Benefits Working Hours Freedom of Association
安全衛生	機械装置の安全対策 職場の安全 職場の衛生 労働災害・労働疾病 緊急時の対応 身体的負荷のかかる作業への配慮 施設の安全衛生 従業員の健康管理	HEALTH and SAFETY	Machine Safeguarding Occupational Safety Industrial Hygiene Occupational Injury and Illness Emergency Preparedness Physically Demanding Work Dormitory and Canteen -
環 境	製品に含有する化学物質の管理 製造工程で用いる化学物質の管理 環境マネジメントシステム 環境への影響の最小化(排水・汚泥・排気など) 環境許可証 / 行政認可 資源・エネルギーの有効活用(3R) 温室効果ガスの排出量削減 廃棄物削減 環境保全への取組み状況の開示	ENVIRONMENTAL	Product Content Restrictions Hazardous Substances - Air Emissions Environmental Permits and Reporting Pollution Prevention and Resource Reduction - Wastewater and Solid Waste -
公正取引・倫理	汚職・賄賂などの禁止 優越的地位の濫用の禁止 不適切な利益供与および受領の禁止 競争制限的行為の禁止 正確な製品・サービス情報の提供 知的財産の尊重 適切な輸出管理 情報公開 不正行為の予防・早期発見	ETHICS	Business Integrity - No Improper Advantage Fair Business, Advertising and Competition - Intellectual Property - Disclosure of Information Protection of Identity
品質・安全性	製品安全性の確保 品質マネジメントシステム		- -
情報セキュリティ	コンピュータ・ネットワーク脅威に対する防御 個人情報の漏洩防止 顧客・第三者の機密情報の漏洩防止		- - -
社会貢献	社会・地域への貢献	(ETHICS)	Community Engagement
-	(管理の仕組みについてはチェックリストでカバー)	MANAGEMENT SYSTEM	Company Commitment Management Accountability and Responsibility Legal and Customer Requirements Risk Assessment and Risk Management Performance Objectives with Implementation Plan and Measures Training Communication Worker Feedback and Participation Audits and Assessments Corrective Action Process Documentation and Records